

性的少数者に対応 徐々に

札幌市の職場「指標制度」に31社

札幌市が、LGBT(性的少数者)が動きやすい職場づくりを進める企業や事業所が登録する「フレンドリー指標制度」を始めて10月で1年を迎える。市によると、これまでに17社が登録。LGBTについて学ぶ機会を設けたり、ステッカーを作ったりと、できるだけ早く取り組み始める企業が多い。市内では関連するセミナーも開かれるなど、徐々に理解が広がっている。

(片山由紀)

LGBT ALLY

性の多様性に理解を

札幌市豊平区の「犬のトリミングルーム モルティ」は、4月にLGBTを象徴するレイン



「犬のトリミングルーム モルティ」の店舗入り口に貼られたLGBTへの支援を訴えるステッカー

研修会開催やステッカー掲示

札幌市LGBTフレンドリー指標制度 2017年10月1日に始まった札幌の独自制度。LGBTに関する取り組みを行う市内の事業所が対象。評価指標項目は①企業の社内規定などにLGBTへの差別やハラスメントの禁止に関する記述がある②従業員がLGBTに関する悩みを打ち明けられる相談体制がある③同性パートナーへの福利厚生が認められているなどで、取り組み項目数に応じて星(★)の数で3段階の評価を行っている。登録企業は市ホームページで公表されている。問い合わせは市男女共同参画課☎011・211・2962へ。

ボーカリーや、英語で味方や支援者を示す「A-LY」と書いた服を着た犬のステッカーを作製。店舗入り口やレジに貼っている。

同社の加賀裕子社長(46)は2年前、LGBTについて学ぶ講座を受け、「これまで雇っていた従業員の中にも当事者がいたのでは。今後採用したとしても、居づらくなって辞めてしまうことがないように、配慮したい」と考えた。自宅兼店舗に、従業員

が着替えられる部屋を3室用意した。仲間の企業経営者とLGBTの勉強会も開く。加賀さんは「LGBTの人たちに、自分たちの居場所があることを知ってほしい。理解者も増やしたい」と語る。

IT大手の日本ユニシス北海道支店も登録企業の一つだ。役職員の行動規範に「性的マイノリティーへの差別を行わない」と盛り込み、ホームページで公開。6月には東京本社に講師を

道内外の事例を紹介 札幌でセミナー

札幌市内では17日、企業のLGBTに対する理解や支援を考えるセミナーが開催された。道内外の企業の担当者らによるパネルディスカッションも開かれ、現状を報告した。

LGBTが自分らしく働けるよう、多様な取り組みを進める任意団体「Work with Pride」(東京)が主催。

パネルディスカッションに登壇した左から、阿部さん、井上さん、園部さん



布している」と説明した。丸吉新堂印刷(札幌)の阿部晋也社長も、自身の名刺やホームページに「A-LY」のロゴを入れている」と話した。

井上税務会計事務所(同)の井上奈穂子所長は3年前から、自社で顧客や取引先を抱き、LGBTの基礎について学ぶセミナーを開いてきた。最近では「企業などの依頼で講演する機会も増えた」といい、「3年間で理解が進み、周囲でLGBTという言葉を知らない人はいなくなりました。だれもが、いきいきと生きられる社会づくりのために仲間を増やしたい」と語った。